

第36回山陰認知症ケア研究会

認知症医療とケアで最近 私が大切にしていること

繁田雅弘

本資料は第36回山陰認知症ケア研究会に参加して下さった方に復習を支援するためにお送りしたものです。ファイルをコピーして配布するなどの二次利用はお控えください。

1



1. 「共生」を目指して

認知症に関わる共生社会とは、認知症の人が認知症でない人と同じ人生を送ることのできる社会だろうか

2

ニッポン一億総活躍プラン(平成28年6月2日閣議決定)

(4) 地域共生社会の実現

子供・高齢者・障害者など全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる「地域共生社会」を実現する。このため、支え手側と受け手側に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成し、福祉などの地域の公的サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる仕組みを構築する。また、寄附文化を醸成し、NPO との連携や民間資金の活用を図る。



3

認知症施策推進大綱 (認知症施策推進関係閣僚会議 令和元年6月8日)

第1. 基本的考え方

認知症はだれもがなりうるものであり、家族や身近な人が認知症になることなどを含め、多くの人にとって身近なものとなっている。認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し、認知症の人や家族の視点を重視しながら、「共生」と「予防」を車の両輪として施策を推進していく。

本大綱において、

- ・ 「共生」とは、認知症の人が、尊厳と希望を持って認知症とともに生きる、また、認知症があってもなくても同じ社会とともに生きる、という意味である。

引き続き、生活上の困難が生じた場合でも、重症化を予防しつつ、周囲や地域の理解と協力の下、本人が希望を持って前を向き、力を活かしていくことで極力それを減らし、住み慣れた地域の中で尊厳が守られ、自分らしく暮らし続けることができる社会を目指す。



4

「共生」ということば、 もともとは動物学、植物学、鉱物学で使われてきた

- 近代生物学者A. de Bary (1879):「相利共生」(symbiose, symbiosis) (例:クマノミとイソギンチャクなど)

共生 Symbiosis

		生物 A		
		得をする +	損をする -	どちらでもない 0
生物 B	得をする +	相利 mutualism	X	X
	損をする -	寄生 parasitism 捕食 predation	競争 competition	X
	どちらでもない 0	片利 (偏利) commensalism	抑制 (偏害) suppression	中立 neutralism

- 三好学(1888)が『植物研究雑誌』(2巻21号)において、ともに生きるという意味で使用. Symbiose(Symbiosis)の訳語としての「共生」と思われる(久保輝幸 2009)
- 徐々に「牛と人間との『共生』」や「機械と人間との『共生』」といった使われ方へ



5

宗教学における「共生」

- 椎尾師 (1922) : 「諸の衆生と共に極楽に往生しようというが、それはあくまでこの世で精一杯生きたことの延長にあるもの。ただ共に生きるのではなく、生き生きと生きるということ (竹村牧男)」
- 宮元啓一 『仏教の倫理思想』 : 共生は依存関係で成り立つと考えるのは問題。対等の立場で結びついているという意識を強く持つことが大切



6

「共生」の流行

- 黒川紀章は『共生の思想』(1987, 1991)において、聖域論などを提唱
 - 聖域論: 対立する2つのもの、あるいは異質な文化の中に積極的に理解不可能な領域(聖域)を認め尊敬し合う
- 「共生の思想」が一般市民へ流行. 言論界から行政へ、やがて広告業界に(堀内 2012). キャッチフレーズとして氾濫(花崎 2002)
- 心地よい響きをもつスローガンや修飾語として用いられ濫用といってもいいすぎではない状況(小内 1999)
- 「自立と連帯のなかで、誰もが十全に自己実現を果たすことが可能な社会」(武村ほか 2006)といった記載を多くの論文や書類に見出すことができる



7

欧米での近似概念 (「共生」につながる概念)

- ノーマライゼーション: 障害者も健常者と同じ普通(ノーマル)の生活や権利が保障されるように環境を整備すべき
- インテグレーション: 健常者と障害者が違うということを認識した上で同じ場所で教育を受ける
- メインストリーミング: 一般に主流(メインストリーム)とされる健常児の教育を行う場を、障害児の教育の場にもすべき
- インクルーシブ: 完全な包括教育を目指した教育方式
- 上記概念はいずれも福祉学や教育学で展開. 日本では社会学や哲学、宗教学など多岐にわたる領域で議論. よって安易に「共生」を欧米の概念に重ねず、日本人の倫理観や生命観に合った「共生 KYOSEI」を考えるべき(繁田 2020)

8

先人の知見から学ぶ「共生」(1)

- 共生とは、自立(自律)と個性を尊重した関係であって**予定調和ではない**。つまり関係者が**積極的に築いていくべき関係**(高田 1995)
- **障害者が健常者と“同等”に生活することが克服ではない**。それではそれぞれの人の生き方の課題が含まれていない(福島 1998)

9

先人の知見から考える「共生」(2)

- 避けられない対立や緊張関係にある者が、その克服をあきらめて、**「共生」の一語であたかも問題が解決したかのように感じてしまう危険**(小内 1999)
- 障害者と健常者が共に生きられる社会を目指すというメッセージは、**健常者の偏見や差別、抑圧、対立といった諸問題と向き合うことをおろそかにする危険**がある。それでは健常者同士さえ、そして障害者同士も、共に生きること成功していない(福島 1998)

10

先人の知見から考える「共生」(3)

- 他者との関係について差異を差異として認めて許容すること。同質性と異質性が錯綜したなかでの共存を目指すべき(三重野 2000)
- 個々の利害は一致しないことを認め合った上で、互いの利益追求の自由を認める関係(松田 2000)
- 利害や価値観が異なる生き方を実践する人々が、対立し競争することによって多面的で豊かになる社会(井上 2000)

11

演者なりのまとめ

- 共生社会とは、認知症も一つの特性とし、年齢、性(性的志向)、信仰、身体特徴、パーソナリティー、障害や疾病が違って、合理的配慮によって各人の自己実現が図られる社会
- 弱い立場にある人々を、排除や摩擦、孤独や孤立から援護し、社会の一員として取り込み、支え合う社会・・・しかしこれでは不十分
- 各個人が活躍するためには、障害やハンディを埋めるのではなく、長所を伸ばすことが必要。
- 経済的、教育的、公衆衛生的な平等ではない。
- 対立する相手にも、理解できない相手にも、一定の敬意が払われる多様な価値観が許容される社会



12



2. 意思を引き出すためのコミュニケーション

13

「分かっていない」との先入観



- ・ 事例：施設入所中のアルツハイマー型認知症の女性は徘徊中にしばしば転倒した。スタッフは長年食堂で働いていた生活歴から、鍋を手配したところ鍋を洗う動作をするようになり徘徊がなくなった
 - － 食堂で働いていると勘違いしている
 - － 食堂でないのは分かるが、つまらないテレビなんか観るより鍋をいじっているほうがまし！
 - － 食堂か施設か、それはどうでもよく、昔と同じように体を動かしていることが心地よい！
 - － 施設入所しているが、わざわざ鍋を用意してくれたスタッフを気遣って鍋で遊んでいる！
 - － …かもしれないではないか
 - － 「鍋を洗っている姿は、とても手際が良くて・・・」

14

「分かっていない」との先入観



- 家にいるのに「家に帰る」という
 - 場所見当識の障害から、自分の家であることが分からない？
 - 引っ越す前の家を自宅と思っている？ 生家を自宅と思っている？
 - 施設に入ることは誰かが決めた、我慢しようと思ったけど、納得できない！ 気が変わった！
 - ここで暮らそうと思ったが、居心地が悪い！ 雰囲気が悪い、こんな落ち着かない所は家のはずがない！ ここから逃げ出したい！
 - ここは、人が自分を見下すので嫌！
 - その気持ちを説明する余裕がない、頭がまとまらない、言い方が「家じゃない」くらいしか思いつかない
 - 説明しようとしても認知症と言われて聞いてくれない
 - 「家に帰ったら何をしましょうか」「誰が待っているのですか」
 - 安心できる場がなく、帰るところのない悲しみに共感できるか

15

「忘れている」との先入観



- 何度も同じこと言う。それは言ったことを忘れているから？
- いや、例えば「説明した気もするけど、ちゃんと説明できなかったのではないか」「説明した気がしているだけかも」「話したけど、ちゃんと分かってもらえてないのでは」「ちゃんと聞いてくれない」（分かってもらった手応えがない）
 - どうでもいいことなら、言ったことを忘れるが、そもそもどうでもいいことなら、忘れてしまって繰り返さないのではないか
 - 大切なことを分かってもらえたと納得できていないのでは
- では、コミュニケーションの目標は？
 - ① これ以上話しても分かってもらえないと本人にあきらめさせる
 - ② 分かってもらったと納得して繰り返しを止めてもらう

16

言葉に幅を持たせて聴く



- 夫をすでに亡くしているアルツハイマー型認知症の女性が「昨日、お父さんがね…」と話した（「お父さん」は亡くなった夫の呼び名）。すると息子は「ずっと前に亡くなっただろ」と注意した
 - 本人は誰の顔を思い浮かべて「お父さん」と言ったのだろう
 - 認知機能低下のため場面によって人物の呼び名を的確に選べなくなっているかもしれない
 - 今は、孫や嫁が息子のことを「お父さん」と呼ぶ、それに影響されたのかもしれない
 - 本人の「お父さん」は、周囲が「家族や親戚の中の男性の誰か」くらいに思っ聴くのがよいであろう
 - しばらく聞き続けると本人の言う「お父さん」の意味が分かるかも
 - 「昨日」と言っても、1か月前かもしれない、10年前かもしれない、数分前のことかもしれない
 - コミュニケーションにおいて大切なことは、本人が伝えようとしてる想いが、嬉しさなのか、懐かしさなのか、悲しみなのか、寂しさなのか、怒りなのか、それを聴きだすことが聴く目的ではないか

17

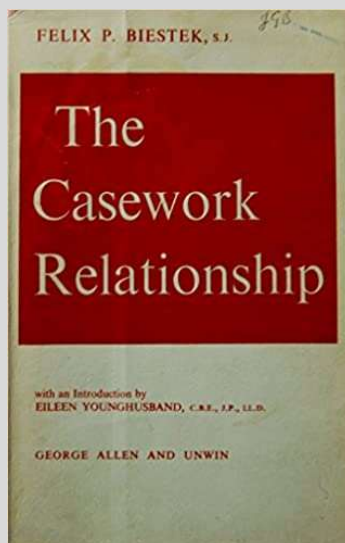


2. 意思を引き出すためのコミュニケーション

よりよいコミュニケーションのヒントを探すうち、私がたどり着いたのは、コミュニケーションのスキルではなく、人と向き合う態度であった

ちなみに、これから述べることは、私ができていることではなく、なかなかできずに苦労していることでもある

18



ケースワーカーがクライアントと良好な関係を築くために、知っておくべきクライアントの基本的なニーズ、それに対応するケースワークの原則 7 つ (Felix Biestek 1957)



19

SEVEN PRINCIPLES IN RELATIONSHIP

<i>The NEED of the client</i>	<i>The RESPONSE of the caseworker</i>	<i>The AWARENESS of the client</i>	<i>the PRINCIPLE</i>
1 To be treated as an individual	The caseworker is sensitive to, understands, and appropriately responds to these needs.	The client is somehow aware of the caseworker's sensitivity, understanding, and response.	1 Individualization
2 To express feelings			2 Purposeful expression of feelings
3 To get sympathetic response to problems			3 Controlled emotional involvement
4 To be recognized as a person of worth			4 Acceptance
5 Not to be judged			5 Nonjudgmental attitude
6 To make his own choices and decisions			6 Client self-determination
7 To keep secrets about self			7 Confidentiality

Biestek FP. The essence of the casework relationship. (in The casework relationship) Loyola University Press, Chicago, 1957, pp.1-20.

20

クライアントの七つの基本的ニーズ	ケースワーカーがとるべき態度
一人の個人として迎えられたい	一個人としてとらえること individualization
感情を表現し解放したい	感情表現を大切にすること purposeful expression of feeling
共感的な反応を得たい	感情を自覚して吟味すること controlled emotional involvement
価値ある人間として受け止められたい	受け止めること acceptance
一方的に非難されたくない	一方的に非難しないこと non judgmental attitude
問題解決を自分で選択, 決定したい	自己決定を促して尊重すること client self determination
自分の秘密をきちんと守りたい	秘密を保持して信頼関係を醸成すること confidentiality

Biestek FP. The essence of the casework relationship. (in The casework relationship) Loyola University Press, Chicago, 1957, pp.1-20.

21

高齢者に心理療法を提供する際に留意すべき点。高齢者に限ったことではないが、とりわけ高齢者の場合に注意しなければならない点（黒川由紀子 1998）

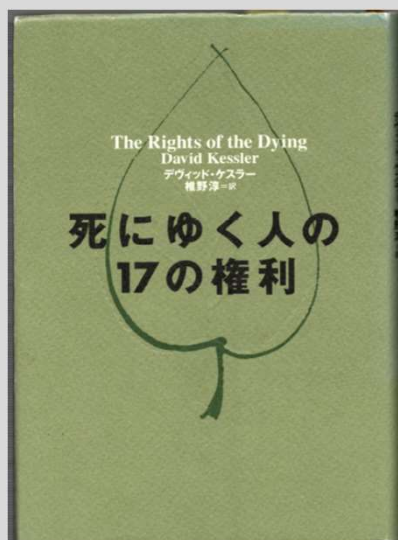
22

高齢者への心理療法の際の留意点 (黒川由紀子 1998)

1. 人生の歴史に関心を寄せる
2. こころに土足で踏み込まない
3. 安易な「受容」や「共感」は慎む
4. 死の問題に誠実に対処できるよう自らの死生観を養う
5. 個々に固有の「意味」「価値」を再発見する
6. 身体的問題に対する適切な対応をする
7. 時間、頻度など枠への配慮をする
8. 終結への配慮をする
9. 家族のサポートをする

黒川由紀子編(1998). 老いの臨床心理: 高齢者のこころのケアのために. (日本評論社)

23



人として生き、人として世を去るときに、守られるべき権利 (『死ぬ瞬間』のキューブラー・ロスの後継者であるデビッド・ケスラー著 1998)



24

死にゆく人の17の権利

The Rights of the Dying, 1998. by David Kessler

認知症にあてはめると守られていない権利が多くあることに気付く

1. 生きている人間として扱われる権利
2. 希望する内容は変わっても、希望を持ち続ける権利
3. 希望する内容は変わっても、希望を与えられる人の世話を受け続ける権利
4. 独自のやり方で、死に対する気持ちを表現する権利
5. 自分の看護に関するあらゆる決定に参加する権利
6. 必要なことを理解できる、思いやりのある、敏感な、知識のある人の介護を受ける権利
7. 治療の目的が「治癒」から「苦痛緩和」に変わっても、引き続き医療を受ける権利

25

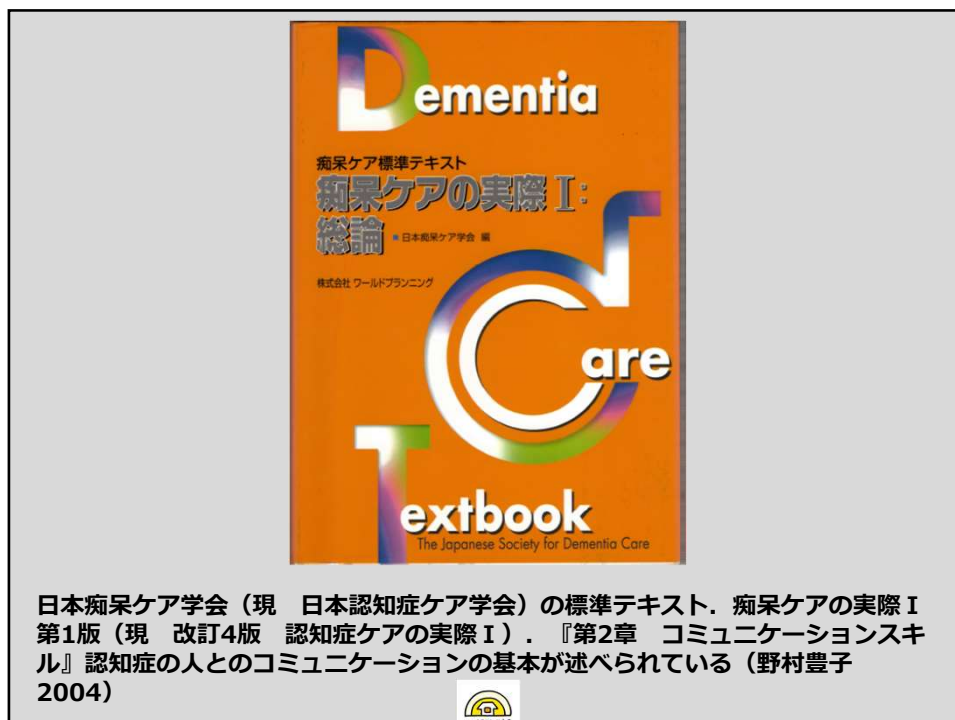
死にゆく人の17の権利（つづき）

The Rights of the Dying, 1998. by David Kessler

認知症にあてはめると守られていない権利が多くあることに気付く

9. すべての疑問に正直で十分な答えをえる権利
10. 精神性を追求する権利
11. 肉体の苦痛から解放される権利
12. 独自のやり方で、痛みに関する気持ちを表現する権利
13. 死の場面から除外されない子供の権利
14. 死の過程を知る権利
15. 死ぬ権利
16. 静かに尊厳をもって死ぬ権利
17. 孤独のうちに死なない権利
18. 死後、遺体の神聖さが尊重されることを期待する権利

26



27

高齢者や認知症の人とのコミュニケーション上の留意点

- ・ （認知症の人は）「私たちが話し始める前から私たちの伝えたいことを聞くことができる」
- ・ 「認知能力は1日を通して増す場合があるし、また逆に衰える場合もある」
- ・ 「声のトーンの変化や声の強弱、また表情や身体言語にとっても繊細な力を発揮する」
- ・ 「ほかのことに気をとられていたり、時間の余裕のないところでは…（認知症の人の）ペースにあわせることは不可能」
- ・ 「自分がリラックスしていることを確認してからコミュニケーションをはじめる」

28

高齢者や認知症の人とのコミュニケーション上の留意点

- ・ 「大きな音、ざわめき、まぶしい光、汚い空気、遠い距離等」などの物理的雑音は軽減しなければならない
- ・ 疼痛や掻痒感、身体的不快などの身体的雑音は軽減しなければならない
- ・ こちらが偏見をもっていると雑音に気付くのが遅れる
- ・ まっすぐに向かい合うと…考え込んだり、沈黙したり、触れられたくないことをそっと隠したり、といった細やかな雰囲気を作られにくい
- ・ 「相手もっている特有の言葉の使い方や文化的背景を尊重し、できる限りその人の用いる言葉を使う」
- ・ 『あなたが私に話してくれてうれしい』, 『あなたの伝えていることがよく分かります』といったメッセージを非言語的に相手にもどすことが必要



29

認知症の人の日常生活・社会生活における 意思決定支援ガイドライン

厚生労働省
平成30年6月



30

意思決定支援のガイドラインより①

支援姿勢が表れている記載を抜粋してみた

- 本人の意思の尊重。「一見すると意思決定が困難と思われる場合であっても、意思決定しながら…」
- 本人の能力への配慮。「本人には意思があり、意思決定能力を有するということを前提にして…」
- 同上。認知症の人の身振り手振り、表情の変化も意思表示として読み取る努力を最大限に行う…」
- 同上。「…認知能力等を向上させる働きかけを行う。」（脚注：意思決定能力は、…社会心理的・環境的・医学身体的・精神的・神経学的状態によって変化する…残存能力への配慮が必要…）

認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定ガイドライン（厚生労働省平成30年6月）



31

意思決定支援のガイドラインより②

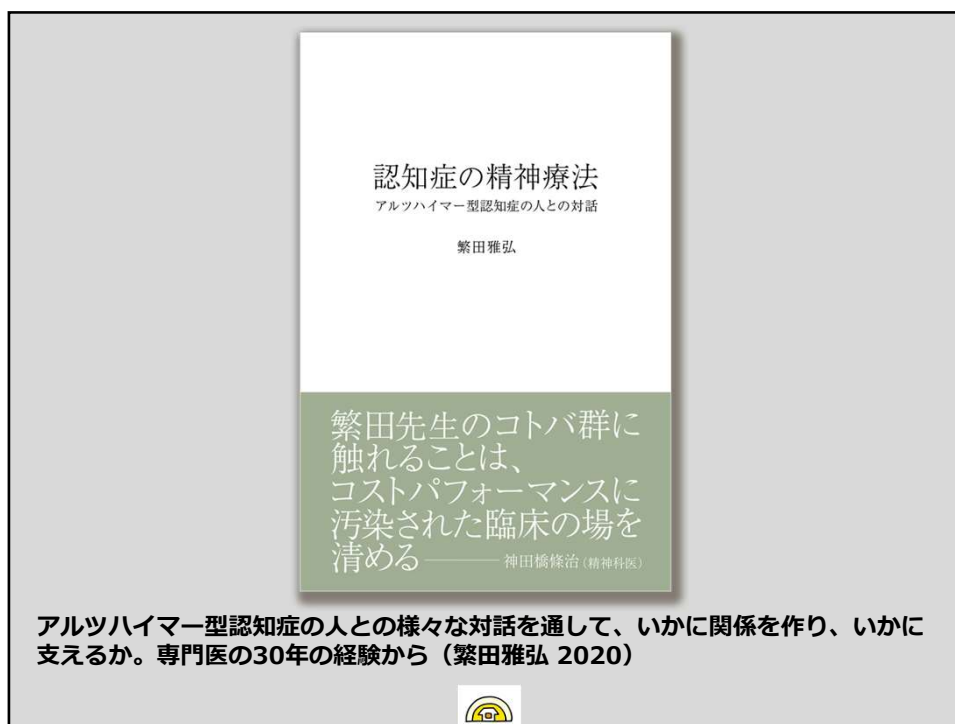
支援姿勢が表れている記載を抜粋してみた

- 支援者・立ち会う人：支援者との信頼関係に配慮、「立ち会う人との関係から、遠慮などにより、自らの意思を十分に表明できない場合もある」
- 環境：「本人が慣れた場所で」「できる限り安心できる環境」「大勢で囲むと本人は圧倒されてしまい」「時期についても急がせないように」「集中できる時間帯」「疲れている時を避ける」
- 意思表示支援：「意思を表明しにくくする要因はないか」「焦らせるようなことは避けなければならない」「意思は、時間の経過や本人が置かれた状況によって変わり得る…適宜その意思を確認する」「時間をおいて確認」「複数の意思決定支援者で確認」「本人の信条や生活歴や価値観等から見て整合性がとれない場合」「表明した意思に迷いがあると考えられる場合」

認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定ガイドライン（厚生労働省平成30年6月）



32



33

私の精神療法の要点 (繁田雅弘 2020)

1. 本人に対して誠実である
2. 意思を引き出す
3. 病気に対する認識を意識する
4. 陰性感情を話題に取り上げる
5. 努力や忍耐に敬意を払い称える
6. 生きがいや過去の達成感を言語化してもらう
7. 自分のニーズに気付いてもらう
8. 身体感覚に関心を向けてもらう
9. 「本人の力になりたい」という家族の想いを本人に伝える
10. 褒めるのではなくともに喜ぶ

『認知症の精神療法 アルツハイマー型認知症の人との対話』HOUSE出版, 平塚, 2020

34



ご清聴ありがとうございました

35

『安心して認知症になれるまち』 地域にひらけた拠り所を平塚に

認知症の専門医である東京慈恵会医科大学教授 繁田雅弘の生家が空き家となったため、この家を「SHIGETAハウス」と名付けて、カフェや認知症について啓発する講習会の拠点、企業研修などを行う場所に生まれ変わらせようと始まったプロジェクトが「SHIGETAハウスプロジェクト」です。



36



毎月、第2火曜日の午後1時（13時）から行っていた認知症カフェを、令和2年8月から再開いたしました。ただし、ソーシャルディスタンスをとらなければならないことから当事者と家族に限定させていただき、予約制にしています。

37

オンライン「平塚カフェ」



ナビゲーター
嘉山 仁
(介護福祉士)



SHIGETA ハウス



ナビゲーター
加藤 由希
(精神保健福祉士)

毎月 第1火曜日の午後7時（19時）から、ZOOMによるオンラインカフェを行っています。オンラインだからこそ、マスクにもフェイスガードにも邪魔されることなく、参加された皆さんの素敵な笑顔に出会えます。素敵な二人のパーソナリティーがご案内します。北は北海道から南は九州・沖縄まで何処でも参加できます！

38



SHIGETA の学校
上級編
繁田雅弘とともに学ぶ「認知症」
 ～『認知症の精神療法』を読む・語る～
繁田雅弘（東京慈恵会医科大学教授）

8/11（火）「対話において私が心掛けていること」（認知症の精神療法 第1章）
 9/8（火）「認知症医療の課題—診断と治療」（認知症の精神療法 付録）
 10/13（火）「家族との対話」（認知症の精神療法 第4, 5章）
 11/10（火）「認知症の人との対話の要点」（認知症の精神療法 第2章）
 12/8（火）「認知症の人との対話例から」（認知症の精神療法 第3章）

39



SHIGETAハウスプロジェクト
メンバー募集中!!

SHIGETAハウスプロジェクトは、皆様からの寄付や会費などにより運営されています。
 思いを実現するためには、皆様の協力が必要です。ぜひSHIGETAハウスプロジェクトのメンバーとなり、
 一緒にSHIGETAハウスを作っていきましょう。

メンバーのお申し込みはこちらをクリック

SHIGETAハウスとは
 平塚カフェ
 SHIGETAの学校
 音 LOVE・畑・スポーツなど
 いのちの授業
 スケジュール住所・連絡先
 動画で知る・学ぶ!
 エイト

SHIGETAハウスプロジェクトのホームページです。

40

**認知症と診断されたあとも続く
あなたらしい暮らしへのヒント**

認知症と診断された
あなたへ



認知症をもつ人に
会いたい

専門医の声を
聞きたい

好きなこと
をしたい

気になる**お金・**
制度のこと

認知症の
基礎知識

つながる
エイト

SHIGETA
ハウスとは

メンバー
募集中!

SHIGETAハウスプロジェクトのメンバー用のホームページです。